

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）
分担研究報告書

第2回 Stevens-Johnson 症候群ならびに中毒性表皮壊死症の全国調査

分担研究者 高知大学医学部小児思春期医学講座 教授 藤枝幹也
研究協力者 高知大学医学部小児思春期医学講座 助教 石原正行
同上 同上 助教 玉城 渉

研究要旨 Stevens-Johnson 症候群ならびに中毒性表皮壊死症は、急性期治療終了後も後遺症が残る事例もあり、その実態と各症例の背景因子を検討する。

A. 研究目的

第2回 Stevens-Johnson 症候群ならびに中毒性表皮壊死症の全国調査に対して後遺症の調査のため、3次調査として呼吸器・肝臓・腎臓疾患の既往歴、背景因子、後遺症の有無調査を目的とする。

B. 研究方法

3次調査として、1. 呼吸器・肝臓・腎臓疾患の既往歴、2. 背景因子(喫煙歴、飲酒歴など)、3. 急性期臓器障害の疾患名および検査・治療内容、4. 退院時あるいは急性期治療終了時の後遺症の有無について調査を行う。当施設では、腎臓後遺症を中心に解析する。

(倫理面への配慮)

情報から得られたデータのみを匿名で、分担研究者および責任研究者の責任の下、保存し、廃棄する場合は紙媒体はシュレーダーを用いて廃棄し、電子データはデータを完全に消去する。

C. 研究結果

現在、3次調査に関して、2次調査協力施設に協力していただいた施設に3次調査票を郵送しており、現在、調査票の返送を回収中である。

D. 考察

まだ、結果が判明していないが、背景因子に慢性腎臓病 (CKD)、糖尿病 (DM) および高血圧があるなら急性期に腎機能の悪化がありうる。さらに回復度合いによっては、CKD の悪化が持続し、一部の症例では透析

導入もあることを危惧する。小児例でも同様なことが推測される。

E. 結論

背景因子としての CKD、DM および高血圧の腎機能への影響を懸念する。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

別紙参照

2. 書籍

別紙参照

3. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む。)

なし